

食品廃棄の現状を知ってください！！ ～食べ物の「もったいない！」を見直そう！～

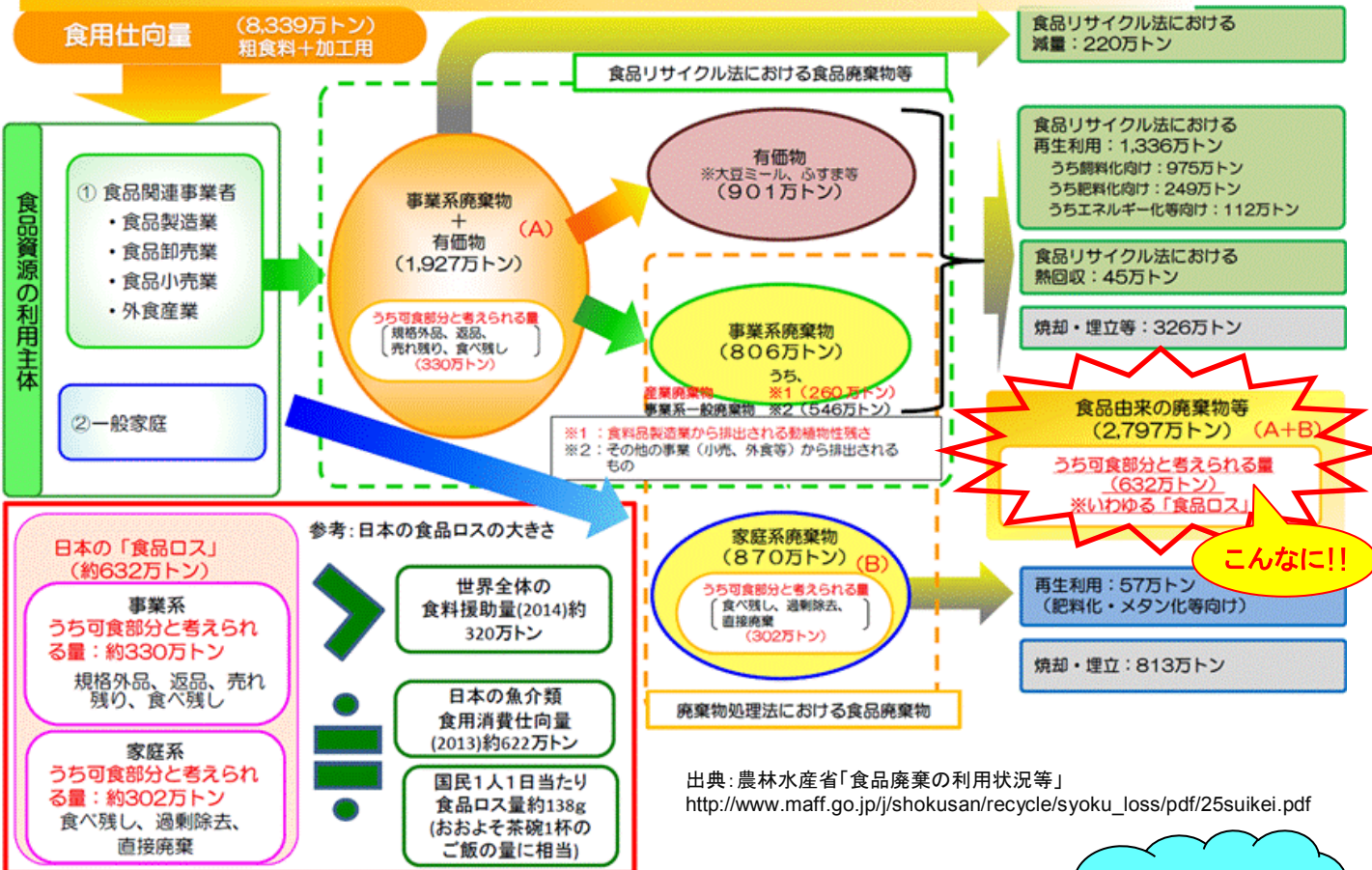
味の素労組



日本の「食品ロス」の現状は？

まだ食べられるのに捨てられる
食べ物を「食品ロス」といいます

●食品廃棄物等の利用状況等（平成25年度推計）＜概念図＞



とは言っても、食べきれないのは仕方がない？
食べ物はいっぱいあるし、仕方がない？

本当に???

補足

日本国内における年間の食品廃棄量は、食料消費全体の3割にあたる約2,800万トン。このうち、売れ残りや期限を超えた食品、食べ残しなど、本来食べられたはずの、いわゆる「食品ロス」は約632万トンとされています。日本人1人あたりに換算すると、「お茶碗約1杯分(約136g)の食べ物」が毎日捨てられている計算となります。日本の食料自給率は現在39%(平成27年度)で、大半を輸入に頼っていますが、その一方で、食べられる食料を大量に捨てています。

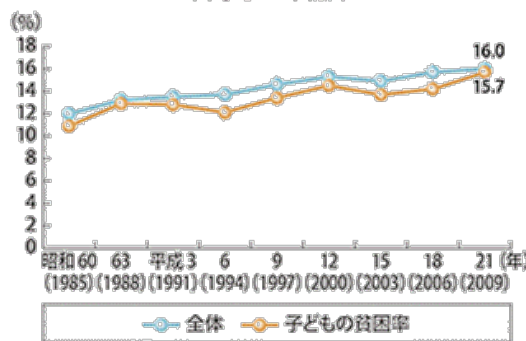
引用・参考：政府広報オンライン「もったいない！食べられるのに捨てられる「食品ロス」を減らそう」
<http://www.gov-online.go.jp/useful/article/201303/4.html>

食品廃棄が多い一方で、貧困率が高い日本。。。

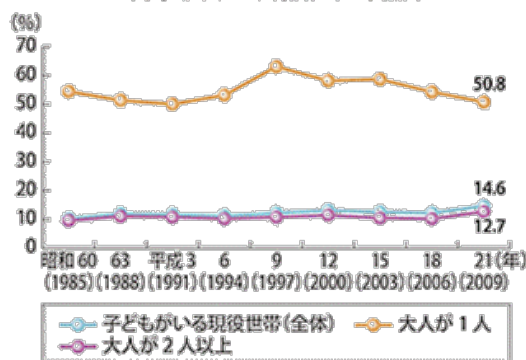
食品廃棄は日本が豊かだからなのでしょう？ 確かに、食料・食材・食文化の豊かな面はあるでしょう。でも、その豊かさは国民全員に行き渡っているわけではありません。“貧困”とされる状況にいる人も多いのです。

第1-3-38図 相対的貧困率

(1) 子どもの貧困率



(2) 子どもがいる現役世帯の貧困率



(出典) 厚生労働省「国民生活基礎調査」

(注) 1. 相対的貧困率とは、OECDの作成基準に基づき、等価可処分所得(世帯の可処分所得を世帯人員の平方根で割って調整した所得)の中央値の平方に満たない世帯員の割合を算出したものを用いて算出。

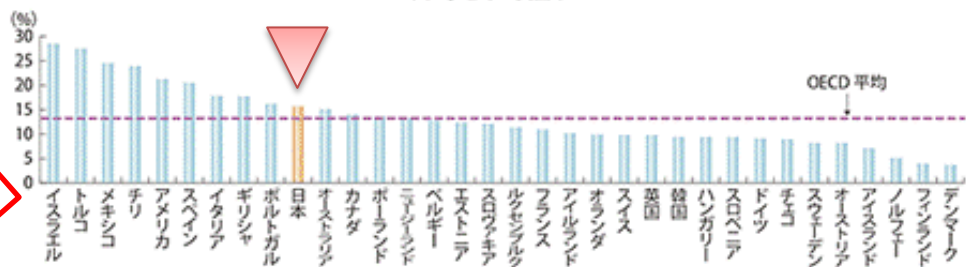
2. 平成6年の数値は長期調査を基いたもの。

3. 夫と妻は18歳以上の者。子どもは17歳以下の者。現役世帯とは世帯主が18歳以上65歳未満の世帯をいう。

4. 等価可処分所得が算出できない世帯は除く。

第1-3-39図 相対的貧困率の国際比較 (2010年)

(1) 子どもの貧困率



(2) 全体

相対的貧困率			子どもの貧困率			子どもがいる世帯の相対的貧困率											
順位	国名	割合	順位	国名	割合	合計		大人1人		大人が2人以上		合計		大人1人		大人が2人以上	
1	チェコ	5.8	1	デンマーク	3.7	1	デンマーク	3.0	1	デンマーク	9.3	1	ドイツ	2.6	1	デンマーク	2.6
2	デンマーク	6.0	2	フィンランド	3.9	2	フィンランド	3.7	2	フィンランド	11.4	1	デンマーク	2.6	2	デンマーク	2.6
3	アイスランド	6.4	3	ノルウェー	5.1	3	ノルウェー	4.4	3	ノルウェー	14.7	3	ノルウェー	2.8	3	ノルウェー	2.8
4	ハンガリー	6.8	4	アイスランド	7.1	4	アイスランド	6.3	4	アイスランド	15.9	4	フィンランド	3.0	4	アイスランド	3.4
5	ルクセンブルク	7.2	5	オーストリア	8.2	5	オーストリア	6.7	5	オーストリア	16.9	5	アイスランド	3.4	5	アイスランド	3.4
6	フィンランド	7.3	6	スウェーデン	8.2	6	スウェーデン	6.9	6	スウェーデン	18.6	6	スウェーデン	4.3	6	スウェーデン	4.3
7	ノルウェー	7.5	7	チェコ	9.0	7	ドイツ	7.1	7	アイルランド	19.5	7	オーストリア	5.4	7	オーストリア	5.4
8	オランダ	7.5	8	ドイツ	9.1	8	チェコ	7.6	8	フランス	25.3	7	オランダ	5.4	8	フランス	5.6
9	スロバキア	7.8	9	スロベニア	9.4	9	オランダ	7.9	9	ポーランド	25.3	9	フランス	5.6	9	フランス	5.6
10	フランス	7.9	10	ハンガリー	9.4	10	スロベニア	8.2	10	ポルトガル	30.9	10	チェコ	6.0	10	チェコ	6.0
11	オーストリア	8.1	11	韓国	9.4	11	フランス	8.7	11	アイスランド	27.1	11	スロベニア	6.7	11	スロベニア	6.7
12	ドイツ	8.8	12	アイス	9.8	11	アイス	8.7	12	ギリシャ	27.3	12	アイス	7.2	12	アイス	7.2
13	アイルランド	9.0	12	アイス	9.8	13	ハンガリー	9.0	13	ニュージーランド	28.8	13	ハンガリー	7.5	13	ハンガリー	7.5
14	スウェーデン	9.1	14	オランダ	9.9	14	英国	9.2	14	ポルトガル	30.9	13	ベルギー	7.5	14	ベルギー	7.5
15	スロベニア	9.2	15	アイルランド	10.2	15	アイルランド	9.7	15	メキシコ	31.3	15	ニュージーランド	7.9	15	ニュージーランド	7.9
16	アイス	9.5	16	フランス	11.0	16	ルクセンブルク	9.9	15	オランダ	31.3	15	ルクセンブルク	7.9	16	ルクセンブルク	7.9
17	ベルギー	9.7	17	ルクセンブルク	11.4	17	ニュージーランド	10.4	17	アイス	31.6	15	英国	7.9	17	英国	7.9
18	英国	9.9	18	スロバキア	12.1	18	ベルギー	10.5	18	エストニア	31.9	18	アイルランド	8.3	18	アイルランド	8.3
19	ニュージーランド	10.3	19	エストニア	12.4	19	スロバキア	10.9	19	ハンガリー	32.7	19	オーストリア	8.6	19	オーストリア	8.6
20	ポーランド	11.0	20	ベルギー	12.8	20	エストニア	11.4	20	チェコ	33.2	20	カナダ	9.3	20	カナダ	9.3
21	ポルトガル	11.4	21	ニュージーランド	13.3	21	カナダ	11.9	21	スロベニア	34.4	21	エストニア	9.7	21	エストニア	9.7
22	エストニア	11.7	22	ポーランド	13.6	22	ポーランド	12.1	22	ドイツ	34.0	22	スロバキア	10.7	22	スロバキア	10.7
23	カナダ	11.9	23	カナダ	14.0	23	オーストラリア	12.5	23	ベルギー	34.3	23	ポーランド	11.8	23	ポーランド	11.8
24	イスラエル	13.0	24	オーストラリア	15.1	24	ポルトガル	14.2	24	イタリア	35.2	24	日本	12.7	24	日本	12.7
25	ギリシャ	14.3	25	日本	15.7	25	日本	14.6	25	トルコ	38.2	25	ポルトガル	13.1	25	ポルトガル	13.1
26	オーストラリア	14.5	26	ポルトガル	16.2	26	ギリシャ	15.8	26	スペイン	38.8	26	アメリカ	15.2	26	アメリカ	15.2
27	韓国	14.9	27	ギリシャ	17.7	27	イタリア	16.6	27	カナダ	39.8	26	ギリシャ	15.2	27	ギリシャ	15.2
28	スペイン	15.4	28	イタリア	17.8	28	アメリカ	18.6	28	ルクセンブルク	44.2	28	イタリア	15.4	28	イタリア	15.4
29	日本	16.0	29	スペイン	20.5	29	スペイン	18.9	29	オーストラリア	44.9	29	ギリシャ	17.9	29	ギリシャ	17.9
30	アメリカ	17.4	30	アメリカ	21.2	30	ギリ	20.5	30	アメリカ	45.0	30	スペイン	18.2	30	スペイン	18.2
31	ギリ	18.0	31	ギリ	23.9	31	メキシコ	21.5	31	イスラエル	47.7	31	メキシコ	21.0	31	メキシコ	21.0
32	トルコ	19.3	32	メキシコ	24.5	32	トルコ	22.9	32	ギリ	49.0	32	トルコ	22.6	32	トルコ	22.6
33	メキシコ	20.4	33	トルコ	27.5	33	イスラエル	24.3	33	日本	50.8	33	イスラエル	23.3	33	イスラエル	23.3
34	イスラエル	20.9	34	イスラエル	28.5	34	韓国	—	34	韓国	—	34	韓国	—	34	韓国	—
	OECD平均	11.3		OECD平均	13.3		OECD平均	11.6		OECD平均	31.0		OECD平均	9.9		OECD平均	9.9

(出典) OECD (2014) Family database "Child poverty"

(注) ハンガリー、アイルランド、日本、ニュージーランド、アイス、トルコの数値は2009年、チリは2011年。

OECDによると、日本の子どもの相対的貧困率はOECD加盟国34カ国中10番目に高く、OECD平均を上回っています。

子どもがいる現役世帯のうち、大人が1人の世帯の相対的貧困率はOECD加盟国中最も高いのです。

食べ物が廃棄されないようにするには…

方法①

需要(食品を食べる・買う側)と供給(食品を作る・売る側)のバランスを揃える

- ◆家庭…必要な分だけ購入し、食事を食べられる量だけ作る
- ◆外食…必要な(食べ切れる)分だけ注文する

【起こりうる課題】

- ◇家庭：皆がほしいと思わないものがあまり、ほしいものが手に入らなくなってしまうかも
- ◇外食：注文がなかった食材があまり、注文があった料理のための食材が足りなくなってしまうかも

【対策】

- ・賞味期限切れの商品だって食べられる！ もっと売っていきこう！
- ・「3分の1ルール」※はやめよう！
- ・冷凍などの技術を使ってもっと長持ちするように！
- ・食材をもっと長く保存できるような技術・設備を！
- ・お客のニーズの予測システムを確立しよう！



※「3分の1ルール」って？ → 製造から賞味期限の1/3を過ぎると、小売店に売ることができなくなる、次の1/3を過ぎると消費者に売れなくなるという慣習。賞味期限6カ月なら、2カ月以内に小売店に売って、次の2カ月以内に消費者に売らなければならない。

方法②

食料を消費する(食べられる)人を増やす

- ◆家庭&外食…まだ食べられるのに廃棄される予定の食品・食材を、食料が足りていない人に提供する
例えば、こども食堂やNPO団体に食べ物を提供する、賞味期限切れ商品の販売を促進する、外食の食べ残しを持ち帰る など

【起こりうる課題】

賞味期限を過ぎた商品を食べることで、品質問題や健康被害が起こってしまうかも

【対策】

- ・賞味期限切れの商品について正しい理解を広めよう！
- ・食べられる・食べられないの判断は自分で責任を持ってするという意識を広めよう！



方法③

食品の食べられる期間を延ばす

- ◆家庭&外食…今日食べるべきものを明日以降にも、今食べるべきものを後でも食べられるようにする
例えば、賞味期限を延ばす技術や総菜などのすぐ食べないといけないものを長期保存できる技術の開発、外食の食べ残しも持って帰って良いことにする など

など、など…



まずは、簡単にできそうなことから
やってみませんか？

少しずつでも、食品廃棄の減少につながります

まずは消費期限、賞味期限をしっかり理解、 外食したときは持ち帰れるか聞いてみよう！

消費期限・賞味期限の意味を理解しましょう

消費期限とは？

袋や容器を空けないままで、書かれた保存方法を守って保存していた場合に、この「年月日」まで「安全に食べられる期限」のこと。お弁当・サンドイッチ・生麺・ケーキなど、いたみやすい食品に表示されています。その食品によっても違いますが、だいたい5日以内。表示をよく確認して、この期限を過ぎたら食べないほうが良いです。



賞味期限とは？

袋や容器を空けないままで、書かれた保存方法を守って保存していた場合に、この「年月日」まで「**品質が変わらずにおいしく食べられる期限**」のこと。スナック菓子、カップ麺、チーズ、缶詰、ペットボトル飲料など、消費期限が表示された食品に比べて、いたみにくい食品に表示されています。この期限を過ぎても、**すぐに食べられなくなるわけではありません**。色やにおい、味などをチェックして異常がなければ、まだ食べることができます。食品は表示されている保存方法を守って保存しておくことが大切です（ただし、一度開けてしまった食品は期限に関係なく早めに食べたほうが良いです！）。

安心してください、食べられますよ！

外食で残したものは持ち帰れるか聞いてみましょう

残したものを持ち帰りできるお店もあります。残してゴミにしてしまう前に、お店の人に持ち帰れないか聞いてみましょう。注文する前にも一度、食べ切れるか考える習慣をつけることも重要。適量を注文することは自分自身の健康にもつながります。

注文した食べ物に、最後まで責任を持ちましょう！



※廃棄を減らす方法、消費期限・賞味期限、外食の食べ残しの持ち帰り、「3分の1ルール」についての補足資料が、エンゲージポイント一覧の資料ボタンからご覧いただけます。